

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>テイク・ダウン</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.510</b>	△RG <b>0.053</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：テイク・ダウン**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番

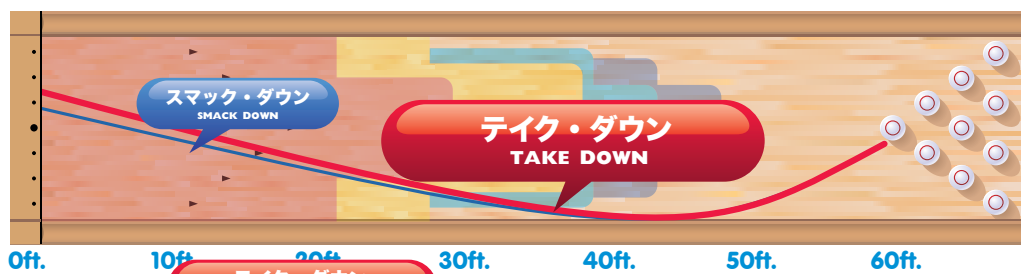
**比較対照ボール：スマック・ダウン**

フレアーの幅  インチ

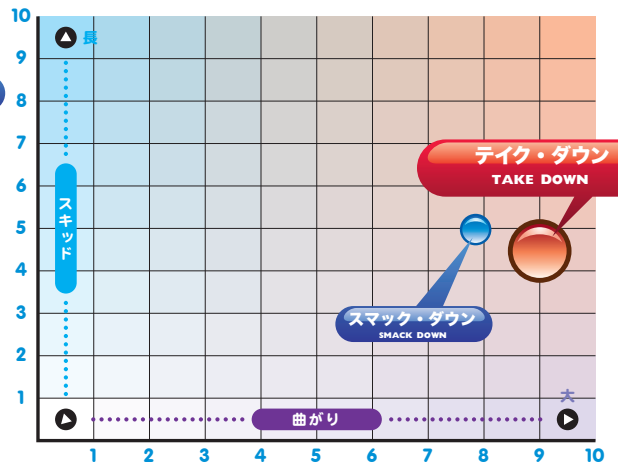
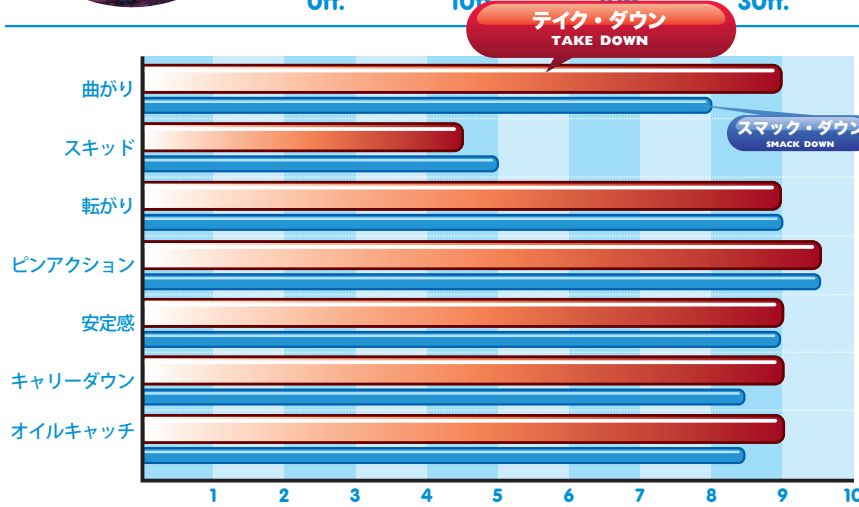
PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

前作のSmack Downは昨年のコロンビア社から発売した中でポウラーの評価も良いボールでした。その為Take Downでは更なるパフォーマンスを提供することが非常に重要でした。Take Downの開発に当たっては多くのスタイルのポウラー、コンディションで広範囲にわたるテストを行い、多くのポウラーに好まれる性能に仕上がっていると思います。コロンビア社は昨年の6月以降、キャッチやスキッド、ドライゾーンでのグリップ力等さまざまな領域別に各々しっかりと区別を行ってきました。Smack Down同様、Upper Mid Performance領域ですが、High Performance領域とも思えるキャッチ感とグリップ力はSmack Downよりも強化され、Smack Downの曲がり少し足りない時はTake Downが威力を発揮します。ほとんどのポウラーにとってTake DownはSmack Downよりも強く感じると思います。表面の凹凸はしっかりとグリップし、コンディションの変化にも対応しやすいボールだと思います。

Take Downは3色のパールを使用した”Bring-It Pearl”カバーストックですが、走りスムーズな動きを追求したため#3000アブラロンで仕上げました。その仕上げが絶妙な走り具合とオイルに対する強さを出しています。

私が驚いたのは、ミッドエリアで強い曲がり始めがあり、キャリーダウンの影響が少ない性能に感じたこと以上に、ピンヒットまで”曲がりがたれない”ことでした。こういう性能であれば、ピンヒット前後でパワーは失速傾向でもおかしくはないのですが、長い年月のテストの成果は広範囲のポウラーに適応しやすい曲がり具合とオイルに対する強さを感じさせてくれます。

非常に良いバランスで仕上がっていると思います。

### 特記事項

**Upper Mid Performance領域ですが、かなりオイルに対する強さを感じます。曲がりの軌跡が読みやすい以上に、しっかりと曲がりを感じることができる数少ない非常に良い仕上がりのボールです。**